

鹿児島の動物①

カスミサンショウウオ

脊椎動物担当 中間 弘

鹿児島県には、カスミサンショウウオ、ベッコウサンショウウオ、ブチサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオの4種類のサンショウウオが生息しています。今回は、この中からカスミサンショウウオを紹介しましょう。

西日本に広く分布するサンショウウオですが、出水平野が分布の南限になっています。九州では福岡県や長崎県男女群島、熊本県天草には分布しますが、熊本市～水俣市には分布せず、そこを飛び越えるようにして出水平野に分布する点は興味深いところです。

日本産のサンショウウオの多くは標高の高い山地の溪流に産卵しますが、このカスミサンショウウオは田や池など、標高の低いところの水たまりに産卵します。親の生息環境も

水たまりにほど近い山や丘の朽ち木の下などです。ところが、こうした標高が低くて水のある環境は人間にとっても都合の良い場所で、開発によってサンショウウオにとっての生息環境がどんどん失われていきます。



これまでの調査で、阿久根市筒田から出水市高尾野町野添にかけての地域で生息が確認できました。1～2月の産卵期には、田の水たまりなどに透明なバナナの房のような卵の塊が見られますので、探してみてもはどうでしょうか！



鹿児島の植物①

ボウラン

植物担当 大屋 哲

ランと言えば、山の奥にひっそりと咲いているイメージがありますが、このボウランは、公園や学校、神社などに植えられた大木の樹皮など



にも着生しています。自然状態では、凹凸の大きな樹皮をもつ樹木や岩上に根をはり、7月から8月頃に、淡い黄緑色の可憐な花を茎の節に2～5個つけます。

名前の由来は丸い棒のような葉の形によります。なぜこのような形をしているのでしょうか。

ボウランの着生する大木や岩の上は、地面

よりはるかに乾燥しています。水の少ない環境では、植物には乾燥から身を守るいろいろな工夫が見られます。ボウランは

- ①葉を丸い棒のような形にして表面積を少なくし、水の蒸散を抑える
- ②葉を多肉質に（厚く）して水分を葉の中に貯めておく

ことで、太く丸くなったと考えられます。

ボウランは、日本では、本州（近畿地方南部）から琉球まで分布します。身近なランなので、ぜひ、家の周辺の公園や神社、学校にある大木をさがしてみてください。また、木のどんな場所に着生しているのか注目しながら観察すると、ボウランの生きていくための工夫がもっとわかるかもしれません。

ただし、森林の伐採などで生息地が減少しており、環境省の準絶滅危惧種になっていますので、採集は控えましょう。